

## 活動報告（7月レポート）

担当：県西部農林事務所農業女子会プロジェクトチーム

表題：第2回「つながる農業女子会」～GAPについて学びました～

日時：平成30年7月12日（木曜日）

若手女性農業者の経営セミナー「つながる農業女子会」の今年度第2回を開催しました。

テーマは「GAP（=Good Agricultural Practice）」です。「GAP」とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことで、最近では2020年東京オリンピックの食材調達基準としても注目を集めています。事前アンケートでは、ほとんどの受講生が「興味がある」と回答したものの、「GAPが求められるのはわかるけれど、実践するのは大変そう…」など、敬遠気味の本音も聞こえてきました。今回のセミナーではGAPに対する受講生の誤解や思い込みを少しでも減らし、実践へのステップとすることを目指して、講義と先進的経営体の視察をメニューとしました。

講義は西部農林事務所のGAP推進担当が行いました。GAPとは何か、実践による経営改善効果やリスク軽減効果、優良実践事例のほか、JGAP等の標準的なGAP認証へのステップアップに有効な県独自の認証「しずおか農林水産物認証制度」などについて紹介しました。

講義の後、GAPを実践する先進的農業経営体として、京丸園株式会社を視察しました。総務取締役の鈴木緑氏から、GAP導入に至った経緯や、経営へのインパクト、GAP導入後の社員・取引先それぞれの変化などについて、先輩女性農業者ならではの視点から、わかりやすく、親しみやすく解説していただきました。

視察した受講生からは、「現場からの課題抽出とトップの決断力のループが素晴らしいと思いました」「作業工程の明確化、農作業の安全性について大変参考になりました」「GAPは難しそうと思っていましたが、お話を聞くと、基本的なことを徹底してやる、ということのかなと思いました」「すぐに取り入れられそうなことを実際に見たり伺ったりできてよかったです。とても刺激になりました」などの感想が寄せられました。



講義の様子



京丸園(株)を視察

